



パーティションの設定

パーティションには、電話番号（DN）およびルートパターンが登録されているルートパターンのリストが含まれています。パーティションは、編成、ロケーション、およびコールタイプに基づいて、ルートプランを複数の論理サブセットに分割することにより、コールルーティングを容易にするものです。パーティションの詳細については、『Cisco Unified CallManager システムガイド』の「パーティションおよびコーリングサーチスペース」を参照してください。

ルートパーティションを検索、追加、更新、または削除するには、次のトピックを参照してください。

- [パーティションの検索 \(P.41-2\)](#)
- [パーティションの設定 \(P.41-3\)](#)
- [パーティションの削除 \(P.41-4\)](#)
- [パーティションの設定値 \(P.41-5\)](#)

パーティションの検索

ネットワーク内にはいくつかのパーティションが存在することがあるので、Cisco Unified CallManager では、固有の条件を指定して、固有のパーティションを特定することができます。パーティションを特定する手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco Unified CallManager の管理ページでは、ブラウザセッションでの作業中は、パーティションの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えない限り、パーティションの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [コールルーティング] > [コントロールのクラス] > [パーティション] の順に選択します。

[パーティションの検索と一覧表示 (Find and List Partitions)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列で終わる]
- [が次の文字列と等しい]
- [が空である]
- [が空ではない]

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索] をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



(注)

データベースに登録されているパーティションをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

検出されたパーティションのリストが、次の項目別に表示されます。

- [パーティション名 (Partition Name)]
- [説明 (Description)]



ヒント

検索結果内でパーティションを検索するには、[絞り込み] チェックボックスをオンにし、この手順の説明に従って検索条件を入力します。



(注)

該当するパーティションの横にあるチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除] をクリックすると、[パーティションの検索と一覧表示 (Find and List Partitions)] ウィンドウから複数のパーティションを削除できます。[すべてを選択] をクリックして [選択項目の削除] をクリックすると、ウィンドウ内のすべてのパーティションを削除できます。

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件と一致するパーティションをクリックします。

ウィンドウに、選択したパーティションが表示されます。

追加情報

P.41-7 の「関連項目」を参照してください。

パーティションの設定

パーティションを追加する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 メニューバーで [コールルーティング] > [コントロールのクラス] > [パーティション] の順に選択します。

[パーティションの検索と一覧表示 (Find and List Partitions)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次のいずれかの作業を行います。

- 新しいパーティションを追加するには、[新規追加] ボタンをクリックし、**ステップ 3** に進みます。
- 既存のパーティションを更新するには、対象となるパーティションを見つけて (P.41-2 の「パーティションの検索」を参照)、**ステップ 3** に進みます。

ステップ 3 適切な設定値を入力します (表 41-1 を参照)。

ステップ 4 [保存] をクリックします。

パーティションを更新している場合は、[リセット] をクリックします。そのパーティションに関連したデバイスをリセットすると、影響を受けるゲートウェイ上のコールがすべて欠落します。



(注) 複数のパーティションを設定できます。複数のパーティションを入力するには、各パーティションエントリに対して 1 行を使用します。最大 75 のパーティションを入力できます。入力できる文字数は、それぞれの名前と説明を合計して 1475 文字までです。各行のパーティション名と説明はカンマ (,) で区切ってください。説明を入力しない場合、Cisco Unified CallManager は、名前を説明として使用します。

追加情報

P.41-7 の「関連項目」を参照してください。

パーティションの削除

パーティションを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

パーティションがコーリング サーチ スペースなどの項目またはルート パターンに割り当てられている場合は、そのパーティションを削除できません。パーティションを使用しているコーリング サーチ スペースなどの項目を検索するには、[パーティションの設定 (Partition Configuration)] ウィンドウの [関連リンク] ドロップダウン リスト ボックスにある [依存関係レコード] を選択し、[移動] をクリックします。依存関係レコードがシステムで使用可能になっていない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、P.A-4 の「依存関係レコードへのアクセス」を参照してください。使用されているパーティションを削除しようとする、Cisco Unified CallManager はメッセージを表示します。現在使用されているパーティションを削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除するパーティションを使用しているコーリング サーチ スペースやデバイスなどの項目すべてに、別のパーティションを割り当てる。
- 削除するパーティションを使用しているコーリング サーチ スペースやデバイスなどの項目を削除する。

手順

-
- ステップ 1** メニューバーで [コールルーティング] > [コントロールのクラス] > [パーティション] の順に選択します。
- ステップ 2** 削除するパーティションを見つけます。P.41-2 の「パーティションの検索」を参照してください。
- ステップ 3** 削除するパーティションのチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除] をクリックします。



ヒント [すべてを選択] をクリックして [選択項目の削除] をクリックすると、リスト内のすべてのパーティションを削除できます。

この操作を実行すると取り消せないことを確認するメッセージが表示されます。

- ステップ 4** パーティションを削除するには、[OK] をクリックします。削除操作を取り消すには、[キャンセル] をクリックします。



注意

パーティションを削除するときは、削除するパーティションが正しいか慎重に確認してください。削除したパーティションを元に戻すことはできません。不用意に削除すると、削除したパーティションを作成し直す必要があります。



ヒント パーティションの削除は、削除するパーティションを見つけて表示し、[削除] をクリックすることによっても実行できます。

追加情報

P.41-7 の「関連項目」を参照してください。

パーティションの設定値

表 41-1 では、パーティションの設定値について説明します。関連する手順については、P.41-7 の「関連項目」を参照してください。

表 41-1 パーティションの設定値


フィールド	説明
[<パーティション名>, <説明>]	<p>名前を [<パーティション名>, <説明>] ボックスに入力します。各パーティション名が、そのルート プランに固有の名前であることを確認してください。パーティション名には、英数字、スペース、ハイフン (-)、およびアンダースコア (_) を使用できます。</p> <p> (注) パーティション名の長さによって、コーリング サーチ スペースに追加できるパーティションの最大数が制限されます。表 41-2 に、パーティション名が固定長である場合にコーリング サーチ スペースに追加できるパーティションの最大数の例を示します。</p> <p>パーティション名の後にカンマ (,) を入力してから、そのパーティション名と同じ行に説明を入力します。説明を入力しない場合は、Cisco Unified CallManager が、自動的にこのフィールドにパーティション名を入力します。</p> <p>各パーティションおよび説明には新しい行を使用してください。</p>
[スケジュール (Time Schedule)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、このパーティションに関連付けるタイム スケジュールを選択します。関連付けられたタイム スケジュールは、パーティションがいつ着信コールを受信できるかを指定します。</p> <p>デフォルト値は [<None>] です。この値は、time-of-day ルーティングが有効ではなく、パーティションが常にアクティブであることを意味します。</p> <p>パーティションのタイム スケジュールとの関連は、次のフィールドにある [タイムゾーン (Time Zone)] 値との組み合わせで、time-of-day ルーティング用のパーティションを設定します。指定されたタイム スケジュールに対して、このパーティションへの着信コールがチェックされます。</p>

表 41-1 パーティションの設定値 (続き)

フィールド	説明
[タイムゾーン (Time Zone)]	<p>次のいずれかのオプションを選択し、パーティションをタイムゾーンに関連付けます。</p> <ul style="list-style-type: none"> [発信側デバイス (Originating Device)] : このオプションを選択すると、発信側デバイスのタイムゾーンに関連付けられたタイムスケジュールに対してパーティションがチェックされます。 [特定のタイムゾーン (Specific Time Zone)] : このオプションを選択する場合は、ドロップダウンリストボックスからタイムゾーンを選択します。このタイムゾーンの中でパーティションが指定されたときに、関連付けられたタイムスケジュールに対してパーティションがチェックされます。 <p>これらのオプションはすべて [タイムゾーン (Time Zone)] を指定します。着信コールがあると、Cisco Unified CallManager 上の現在時刻は、オプションの 1 つを選択したときの特定のタイムゾーンセットに変換されます。この特定の時間は、[スケジュール (Time Schedule)] フィールドの値に対して検証されます。</p>



ワンポイント・アドバイス

パーティションには、内容を表す簡潔な名前を使用してください。通常、CompanynameLocationCalltype の形式が、内容を簡潔に表し、パーティションをすばやくかつ簡単に識別できる方式です。たとえば、「CiscoDallasMetroPT」は、Dallas の Cisco オフィスからの、LATA (Local Access and Transport Area) 間の無料コール用のパーティションを特定できます。



ヒント

必要に応じて、[<パーティション名>,<説明>] テキストボックスに各パーティションの名前と説明を入力することにより、複数のパーティションを同時に入力できます。必ず、各パーティションエントリに対して 1 行を使用し、パーティション名と説明はカンマで区切ってください。

表 41-2 に、パーティション名が固定長である場合にコーリングサーチスペースに追加できるパーティションの最大数の例を示します。この最大数の計算方法の詳細については、『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「パーティション名の制限」を参照してください。

表 41-2 コーリングサーチスペースのパーティション制限

パーティション名の長さ	パーティションの最大数
2 文字	170
3 文字	128
4 文字	102
5 文字	86
...	...
10 文字	46
15 文字	32

追加情報

P.41-7 の「関連項目」を参照してください。

関連項目

- [パーティションの検索 \(P.41-2\)](#)
- [パーティションの設定 \(P.41-3\)](#)
- [パーティションの削除 \(P.41-4\)](#)
- [パーティションの設定値 \(P.41-5\)](#)

